

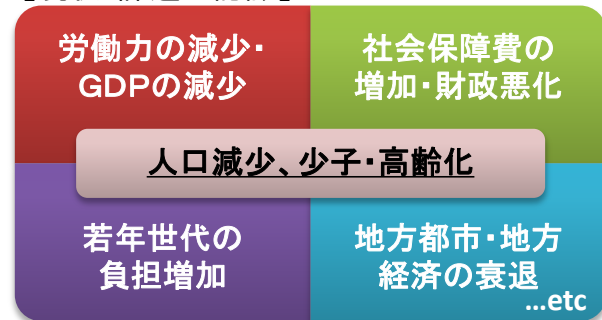
I はじめに

- ◆ 北陸地域連携プラットフォームは、日頃から意識・認識されていても、未だ課題として形を成していないもの、議論しにくいものなどで、北陸地域にとって重要と思われる事柄などについて、地域の各界各層の有識者が意見・議論し、様々な現状や課題の明確化と、それへの対応などについて、広く地域の方々と共有、連携していく「場」。
- ◆ 北陸地域の人口減少、少子・高齢化は全国に先行して進んでおり、そこから発生する諸課題には先頭に立って考え、対応していかなければならないとの認識の下、26年1月以降、産・官・学・金・言からなるコアメンバーが7回にわたって議論。

II これまでの議論の概要

- 第1回～第3回(26年1月～6月)
経済・財政、人口減少、少子・高齢化時代の社会保障、都市政策について議論

【現状・課題の認識】



- 日本創成会議が消滅可能性都市を公表(26年5月)
- 第4回～第5回(26年11月～27年1月)
北陸地域の先進的な取組事例を議論
- まち・ひと・しごと創生法が成立(26年11月)
- 第5回～第7回(27年1月～27年6月)
国の地方創生の取組や北陸新幹線開業効果等を議論

III まとめ -北陸地域の「地方創生」の実現に向けて必要なこと-

地域社会の在り方、暮らし方、価値観などを考え、地域固有の資源やアイデンティティーを活かしながら、地方から戦略を描き出していくことが肝要。

①北陸地域の魅力の洗出し

- 魅力の洗出しと情報発信
- 弱みの洗出しと解消への努力
- 移住定住促進・若者の定着へ

②女性がより一層活躍できる環境を整備

- 仕事と家事・育児を両立できる環境をより一層整備
- 女性の活躍の可能性を広げる

③北陸3県の連携による相乗効果発揮

- 3県がこれまで以上に連携し、魅力を磨き込む
- 周辺・関係自治体と連携、広い視野に立った企画立案・実行

④北陸新幹線開業という「追い風」を最大化

- 開業効果を永続的に、北陸地域の隅々まで波及させ最大化
- 今後の大阪までの全線整備を見据え、できることを準備

⑤金融機関や民間の手法を活用

- 金融機関の役割も非常に重要
- PPP/PFI等の民間の手法を活用

⇒プラットフォームの今後の方向性

地方創生の具体的な施策や取組をテーマに議論し、その結果を情報発信。

【コアメンバーの主な意見】

- 若い方の御意見が重要。若年層などの多様性にどう対応するか。
- 北陸地域全体、自治体同士のシナジーや連携が1つの切り口。
- 北陸に何が足りていて、何が足りないのか、どのように可能性を伸ばすのか議論し、北陸圏を再構築していくべき。
- 県域のハードルを下げていくことも必要。

【座長コメントより】 地域の将来は、地域で育まれた伝統、文化、価値観、地域資源などの下で、地域自身が考え、議論し、選択することにより、生き生きとした特色ある地域を形作って(創生して)いかねばならない。そのためには、北陸地域に住む一人ひとりが地域の将来に関する課題を共有し、そして考え、議論の輪が広がる中で、幸せを実感できる地域・コミュニティ形成への道筋を醸成させていく必要がある。